

オホーツクの風

平成23年1月21日(金) 新年号(0004)

発行所
北見赤十字病院の
明日を考え支援する会
事務局
北見市緑ヶ丘1-10-16
Tel 0157-61-0684

地域医療を考える

日赤の病院改築を機会に

平成20年1月、北見赤十字病院の内科医6人全員が退職、4月からの内科の診療を一時休止をしなければならぬという地域にとって衝撃的な問題が起きました。あれから3回目の新年を迎えました。

日赤は北見市より病院建設用地の無償貸与として多額の財政支援を受け、昨年2月、新しい病院の建設を決定しました。昨年12月には「こんな病院にしたいプロジェクト実行委員会(会長・古屋聖児北見医師会会長)」が立ち上がり、当会の谷川代表も委員になっています。現在、建設に向けて作業が急ピッチで進んでいます。さて当会は昨年1月に発足。2年目の新年を迎え、今年の新一年一つに「地域医療」を

考えています。地域医療といつてもいいまい具体的な考えがわきません。上段(表・地域

☆地域の経済を活性化する

- メディカルシティ構想
- 1. 医療ツーリズム
- 2. 医療コンベンション
- 3. ナノメディシン・ナノ医療

(表・地域医療)

☆地域の人々の健康を守る

1. 病気を診断し治療する
2. 病気を発見する
3. 病気の悪化を防ぐ
4. 病気を予防する
5. 患者のQOLを高める(緩和ケア、看取り)
6. 健常者以外の人の精神的ささえをする

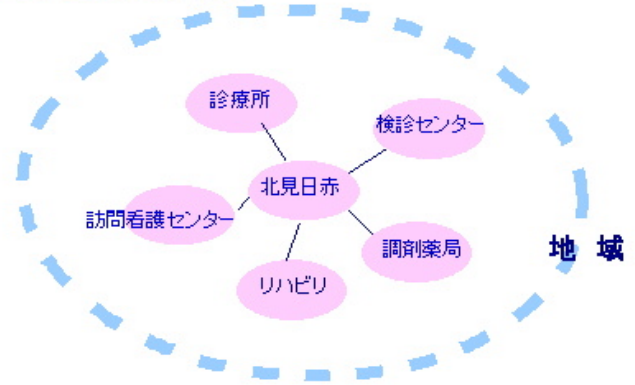
医療)にその素案を標示しました。これをたたき台に話し合いを続けます。

もう一つの取り組み

は「医療連携」です。日赤と一部の診療所で実施されていますが、私達が考えているのは日赤の勤務医の先生と診療所のかかりつけ医の先生が顔の見える信頼の関係を築いてくれることです。患者の情報を共有して症例の勉強を重ねることや交流で、お互いの「信頼」

が醸成されます。診療所の先生が患者の病状に異変を感じた時はすぐにいつでも日赤へ連絡をします。紹介を受けた日赤の先生は病院のそれぞれのスタッフと診療の準備を進めます。患者情報を共有し最適な治療方針をたて命の尊さと向き合います。この仕組みが地域

「ひとつの病院のように」



(図・地域完結型医療連携)

に出来れば私たちは安心してかかりつけ医にかかることが出来ま

す。この顔の見える信頼の輪が地域の医療関係の人と人に広がるこ

二年目の新年を迎えて

代表 谷川 勝男

一年が過ぎてやっと北見赤十字病院と医療のあれこれを学ぶための入口に立つことができた、ということになるでしょう。

ちや心くらは手で動かしたい、かんたんにリセットできないものをこそ大切にしなければと思ふのです。

なしに過ごすことができませぬ。私たちが地域医療の充実を願うのもそのためです。嬉しい初夢にほっとしています。

ケータイのメールで離婚をする人たちがいるというのを聞いて思ったのは、せめて気持ち

が評判になりましたが、その前に「看取り」があつて、看取られるまでの旅の途中、医療

新しい年、それぞれ場で考え、話し合っていければと願ってやみませぬ。

とを願っています。そのイメージを上段(図・地域完結型医療連携)に示しました。私たちは日赤との対話を進めてゆきます。

同時にその実現の一歩として、私たちは「かかりつけ医」をもつことからはじめます。地域医療の今ひとつの側面は地域の経済を元気にすることです。この事業は大がかりです。関係の皆さんと情報の交換を進めてゆきます。

21世紀は地域医療そして医療連携の時代といわれています。今、私達は北見からその文化を発信します。